



「泰山鳴動して...」或は「國を泰山の安きに...」とかのその泰山は古來日本人の間に耳慣れた言葉である。泰山は五嶽(泰山、衡山、華山、恒山、嵩山)の最上嶽に置かれ、その神靈は萬物の運

命生死を司る。歴代の皇帝は山頂の祭禮を行ひ、また前の朝臣に代つて新しく支那に君臨した皇帝は、泰山の神に奉告祭を行つて始めて新政府が天下に認められると考へられたらしい。(寛政は泰山朝覲記)

淄川店にある齊の古墳群(三國時代)



山東の歴史 二

發微』の思想は胡文定、胡翥溪を経て朱子に傳はつて『資治通鑑綱目』となつて大義名分を明らかにし、朱子の名分論はわが南北朝時代僧支那によつて日本に傳はり、北畠親房の『神皇正統記』となり、徳川に及んで、光圀卿の『大日本史』となつた。わが維新の大

業も、その思想の淵源は山東の泰山、麓の泰山書院に發してゐることに驚くのである。日支兩國の交通史より見れば、わが遣唐使の支那大陸に行くや、その初は何れも山東登萊の間に上陸し孔子は我道行はれず、昏に乗つて海に浮ばんとて、山東の一角より、海に浮

先師孔子行教像



先師孔子行教像、孔子廟(臨沂縣内)より、唐吳道子筆(唐代第一流の畫家)



鄒縣驛南にある孔子孟子誕生碑

んて皇國日本に渡らんと志を抱き、秦の徐福は仙薬を求め、山東膠州灣頭より船を載して日本に渡つた。若し夫

革者元の邱長春は山東濰縣の人であり、その同志及び、門人即ち馬丹陽、譚長眞、郝廣寧、劉長生等何れも山東の産であり、日本の狹生徂徠を起した古文辭學の泰斗、明の李攀龍は山東歴城の産であり、又、武人としては、諸葛孔明、顔眞卿の如き忠臣を出した地である

馬場春吉畫、支那山東省より



孔子廟